

遺産地域の隣接地域におけるエゾシカ管理について

(関係団体ヒアリング概要)

斜里町

【農協・農家】

●現状

- ・5～6月に組合員からシカが農地に出没しており対策依頼の連絡がある。
- ・農家の被害感情は個人差がある。

●意見

- ・防鹿柵を設置しているが被害がある原因は、開口部からの進入、ゲートの閉鎖忘れや、冬に柵を壊して侵入する人間側の問題もある。
- ・防鹿柵の見回りも必要である。
- ・ジビエ利用の宣伝は農産物とのコラボなら可能性はある。

●要望

- ・適正な頭数について意見はないが、農地内では被害を許容できないので被害ゼロとして欲しい。

【猟友会】

●現状

- ・新人勧誘の状況、猟友会の若返り状況は理想的である。
役場やJAの補助金も活用している。R2は7名新人中、6名が新人補助金を活用する予定。

●意見

- ・ハンターのコストを減らさないと辞めてしまうケースがある
- ・ハンターを育成、維持することが持続的な低密度化に必要である。
- ・ハンター保険料は安い保険料の保険を探しているが、会員増により対応が難しくなっている。
- ・立ち入り規制・銃所持など手続き的成本

①獲物を捕獲しにくい、労力のコスト

- エサをまいて誘引した上で一斉捕獲を行う。
- 国有林に林道除雪やモービル回収の許可を得る。

②捕獲した鳥獣を処分するコスト(運搬・精肉)

- 食肉業者の売却先を安定化しないとハンターの負担となる。
- ブランド化して高価格で販売したい。

【有効活用事業者】

●現状

- ・シカ個体数は減っていると認識しており、ハンターは猟期に地元以外の他地域に行く。
- ・シカの受け入れについて、2社から以下の意見が出た。
 - ①受け入れ個体の2割程度が地元からの受け入れであり、地元から多くの受け入れを望む。
 - ②狩猟期には他市町村からシカ個体の受け入れており、町内の捕獲数が減少しても問題はないが、なるべく斜里町内でシカ個体を受け入れたい。
- ・2事業所合わせて1年で約2,000頭を受け入れて加工している。
- ・オスシカ1頭あたり約20kgを食用として利用できる。
- ・有害捕獲シカはペット用としての肉は足りている。
- ・新型コロナウイルスの影響でシカの売上が立たないので、有害捕獲シカの受け入れができない。
- ・売却先はホテルや土産物販売店で、これら大口顧客が売り上げの半分を占めている。団体客が来ないと売上げにならない。
- ・冷凍しても売却できなければ在庫が増える一方となることから、シカの受け入れを積極的に行う状況にはならない。
- ・シカのブランド化を望む声はあるが、宣伝しても市場は拡大していない。
- ・頭数だけでなく、シカのコンディションも重要である。
- ・個人で食肉処分するような激安肉が出回っていて、儲けを度外視しているため価格で劣る。

●要望

- ・自然遺産を守る宣伝としてジビエを食べることを発信してもらえないか。

【ウトロ地域】

●意見

- ・エゾシカの捕獲取組について、増加傾向を表す数値的な判断基準はあるか。
- ・ホテルでシカ肉のメニューを提供しているが、事業者からシカ肉の需要に対して供給が不足していると聞いている。その背景として、シカが減り捕獲しにくい状況になってきていると聞く。
- ・山歩きをするが、痕跡はあるが以前よりシカの姿を見なくなっている。草木もさほど被害を受けている印象はない。観光で訪れた人の中には、シカやヒグマなどの生きものを見て、知床の自然を体感する方もいる。現在は駆除ありきで話が進んでいるが、シカも生態系の一部であり、我々でも捕獲の可否を判断できるような数字や写真等で現状を示してもらいたい。
- ・個人的としての感想であるが、シカは減り過ぎではないかと思っている。

●要望

- ・市街地に整備している防鹿柵の維持管理を継続してほしい。
- ・シカの個体数が減っているのが心配である。知床の生態系の現状把握をしたいので、説明会など話を聞く機会がほしい。